

第8回 建設施工における現場作業支援のDXに関するWG

1. 日時

令和6年2月14日(水) 10:00～12:00

2. 場所

中央合同庁舎3号館11階インフラDXルーム

3. 出席者(敬称略) ○印:対面参加、W印:Web参加

<学識者委員> (五十音順)

W 小林泰三(立命館大、副WG長)、 ○永谷圭司(東京大学)、 W 西尾真由子(筑波大学)、
○油田信一(芝浦工大、WG長)

<関連団体委員> ※代理出席含む

W 佐藤郁((一社)日本建設業連合会)、 ○玉石修介((一社)建設産業専門団体連合会)、
W 篠原敬((一社)全国建設産業団体連合会)、 W 加藤卓宏((一社)日本道路建設業協会)
W 元村亜紀((一社)日本建設機械施工協会)、 W 二瓶正康((一社)日本建設機械施工協会)
W 細内義春((一社)全国建設業協会)、 W 森島清一((一社)全国建設業協会)
W 富田邦裕((一社)建設コンサルタンツ協会)、 W 富田克彦((一社)建設コンサルタンツ協会)
W 守栄一((一社)日本建設機械インテリ協会)、 W 田崎昭男((一社)全国測量設計業協会連合会)
○村上弘記((一社)日本ロボット学会)、 W 細田祐司((一社)日本ロボット学会)
W 芹沢哲(ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会)

4. 議事

- (1) 建設業における課題の整理
- (2) 令和5年度の調査結果報告
- (3) 今後の予定

<主な意見>

●令和5年度の調査結果報告に関して

[PASについて]

- 提案されている実証実験について、前回との違いは、PASの技術の進展があることと、対象とする工事として同一作業が長時間続く等の作業に着目して検討することである。
- 実証実験の対象とする作業について、広い視点で選別していくことがよい。
- PASの活用状況について、建設分野の占める割合とその推移について、調査するとよい。
- PASは高価であるため、メーカーの販売状況だけでなく、レンタルによる活用状況も調査す

るとよい。

- 建設分野での活用促進のため、建設以外の分野における課題と解決方法を参考にするとよい。
- 実証実験における疲労軽減効果の測定方法は、技術数が増えていることから調査するとよい。
- 実証実験では長期着用の場合の効果についても確認するとよい。

[XR 技術について]

- VR の中で物理的な重さや作業負荷が表現できればよい。
- 3D データを簡単に扱えるようにしておく必要がある。
- 建設分野のニーズを正しく XR 技術の開発者側に伝える必要がある。

[ドローン技術について]

- 調査対象を農業・物流等の他分野にも広げ、活用方法につき新しい情報があれば取り込むこと。
- 建設分野で有用かつ必要な技術が出てくれば、併せて規則を変えることを検討すればよい。
- 長時間飛行ドローンの実証実験では、飛行可能時間の定義をきちんと定めた方がよい。

●今後の予定について

- 今後2年で本WGのまとめを行う。
- 新技術の可能性を把握し建設分野での作業につき適用される技術の調査を継続する。

以上